

平成 22 年度当初予算 重点的な取組別概要 <みえの舞台づくりプログラム>

絆 3 : 「こころのふるさと三重」づくりプログラム (主担当部 : 政策部)

< プログラムの目標 >

住む人も訪れる人も「心の豊かさ」を実感できる「こころのふるさと三重」をめざして、特色ある地域資源を活用した地域づくりと多彩なイベント、観光振興の取組を一体的に展開することにより、地域に埋もれていた多様な魅力が再発見され、地域の魅力に触れるさまざまな体験交流活動が行われています。

また、「こころのふるさと三重」づくりを進める一環として、2009年から6年間にわたって県内全域で取り組む「^{うま}美し国おこし・三重」により、活動分野や地域を越えた多様な交流・連携が広がっています。

< 構成事業 (担当部) >

- (1) 「^{うま}美し国おこし・三重」総合推進事業 (政策部)
- (2) 世界遺産熊野古道対策推進事業 (政策部)
- (3) 熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業 (政策部)
- (4) 世界遺産登録 5 周年記念事業 (政策部) (H21 終了)
- (5) 歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業 (生活・文化部)
- (6) 【再掲】景観まちづくりプロジェクト事業 (県土整備部)
- (7) 【再掲】都市との共生による農山漁村再生事業 (農水商工部)
- (8) グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業 (農水商工部)
- (9) 【再掲】「旅ごころ誘う三重奏」誘客戦略推進事業 (農水商工部)
- (10) 【再掲】三重の観光プロデューサー設置事業 (農水商工部)
- (11) 【再掲】魅力ある観光地グレードアップ事業 (農水商工部)

(6) (9) (10) (11) の事業は重点事業「絆 1 ・『住んでよし、訪れてよし』の観光みえ・魅力増進対策」の構成事業を、(7) の事業は重点事業「元気 3 ・農山漁村再生への支援」の構成事業を再掲。

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

		H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
策定時の見込額	1	36,012	23,000	24,000	29,000
事業費	2	28,166	64,827	188,116	328,994

1 第二次戦略計画策定時における計画記載額。「^{うま}美し国おこし・三重」総合推進事業および世界遺産登録 5 周年記念事業分の事業費については、策定時に未定のため、見込額には含まれていません。

2 H19, 20 年度は決算額、H21 年度は予算現額、H22 年度は予算要求額

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
(1) パートナーグループ登録数 (累計)	目標値	-	-	-	100 グループ	300 グループ
	実績値	-	-	-		

(2)熊野古道の来訪者数(延べ数)	目標値	-	166千人	179千人	191千人	204千人
	実績値	154千人	150千人	148千人		
(3)熊野古道伊勢路踏破挑戦者数(踏破手帳発行数)(累計)	目標値	-	1,500人	3,000人	4,000人	5,000人
	実績値	-	1,766人	3,828人		
(4)世界遺産登録5周年記念事業への参加者数	目標値	-	-	-	10,000人	-
	実績値	-	-	-		-
(5)歴史街道GISの作成数(累計)	目標値	-	2街道	3街道	4街道	5街道
	実績値	1街道	2街道	2街道		
(8)グリーン・ツーリズム大会参加者数	目標値	-	-	150人	150人	700人
	実績値	-	-	125人		

<進捗状況(現状と課題)>

- ・ 「^{うま}美し国おこし・三重」の取組においては、多様な主体の参画を得て実行委員会を設立し、基本構想や基本計画を策定するとともに、オープニングや座談会の開催等、具体的な取組を行ってきました。今後、地域づくりとイベント、観光振興の取組を一体的に進めていくため、パートナーグループの活動の活性化やネットワーク化を促進していく必要があります。
- ・ 熊野古道の世界遺産登録5周年を契機に、熊野古道の魅力をより広く発信していくため、世界遺産登録5周年記念事業として国際シンポジウムや熊野古道伊勢路リレーウォーク、奈良県・和歌山県との連携による首都圏・関西圏でのフォーラムの実施など、地域や市町、関係機関等と連携した取組を展開しています。また、熊野古道伊勢路について、伊勢から熊野まで、地域の自然や歴史を感じながら安心して歩くことができるよう、市町と協働し、道標の整備を進めています。今後とも三県が連携し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値を地域内外に発信していくとともに、ホスピタリティの向上等、質の高い受入体制の構築を支援していく必要があります。
- ・ 歴史街道GIS(地理情報システム)を活用し、熊野古道や伊勢街道等の情報の集積や発信に取り組むとともに、まち並みを生かした景観まちづくりを進めます。引き続き、街道に関わるさまざまな取組と連携し、街道を通じた地域間連携、広域連携をより一層推進していくことが必要です。
- ・ 農山漁村の多様な魅力・価値の活用に向けては、グリーン・ツーリズムをテーマとしたシンポジウムや地域研修を開催しています。今後も、グリーン・ツーリズムに取り組む実践者のネットワークの拡充に取り組む必要があります。

<平成22年度の取組方向>

「^{うま}美し国おこし・三重」の取組については、引き続き、座談会を開催し、パートナーグループへの登録促進に努めるとともに、その活動の活性化に向けた支援やネットワーク化に取り組めます。また、新たにテーマに基づき全県的に展開する取組を、パートナーグループを始めとする多様な主体の参画を得て進めていきます。

世界遺産登録5周年により弾みをつけることができた「熊野古道を生かした地域づくり」を一層推進していくため、それぞれの地域で熊野古道をはじめとする地域資源を磨き、おもてなしの心を大切にしたい地域づくりを進めます。

歴史街道GIS（地理情報システム）については、三重大学と共同して、街道を核としたデジタルアーカイブ（有形・無形の文化資源等をデジタル化して保存等を行うことをいいます。）のしくみづくり等について具体化していきます。

田舎（農山漁村）の魅力の発信やグリーン・ツーリズムに取り組む実践者のネットワーク化を促進するために、グリーン・ツーリズムネットワーク全国大会を岐阜県と共催で開催します。

<他の主体の参画内容>

- ・ 多様な主体で構成する「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会は、地域づくりや地域のあり方について、共に考えながら自立・持続可能な地域づくりをめざして取り組んでいきます。
- ・ 熊野古道沿線の10市町および熊野古道にかかわる団体や住民の皆さんは、伊勢から熊野まで多くの人々が地域の自然や歴史、文化にふれながら通して歩くことができるよう、県が行う環境の整備やしきみづくりを協働で進めていきます。
- ・ 三重大学は、三重県と共同で、歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業に取り組んでいきます。
- ・ グリーン・ツーリズムに取り組む実践者や農山漁村の活性化に取り組む地域住民の皆さんなどが、三重県、市町と協働で、平成22年にグリーン・ツーリズムネットワーク全国大会を開催します。

<主な事業>

^{うま}「美し国おこし・三重」総合推進事業

【基本事業名：53105 「こころのふるさと三重」づくりの推進】(事業(1))

予算額：(21) 167,969千円 (22) 297,671千円

事業概要：平成21年度に引き続き、座談会の開催やパートナーグループの育成・支援、担い手育成のための研修、広報宣伝活動等を行うとともに、テーマに基づき全県的に展開する取組を、パートナーグループを始めとする多様な主体の参画を得て進めます。

熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業

【基本事業名：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】(事業(3))

予算額：(21) 4,387千円 (22) 5,030千円

事業概要：歴史・文化等をテーマにしたウォークの実施や、まちかどの案内所設置の検討など、多くの人々が伊勢から熊野まで「熊野古道伊勢路」を通して歩くことができるよう、市町や地域の方々と連携し環境の整備やしきみづくりを行います。

歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業

【基本事業名：13104 文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信】(事業(5))

予算額：(21) 2,150千円 (22) 2,150千円

事業概要：三重大学と共同して、街道を核とした歴史的・文化的資産に関するデジタルアーカイブ（有形・無形の文化資源等をデジタル化して保存等を行うことをいいます。）のしくみづくり等を具体化します。

グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業

【基本事業名：53202 都市との交流・共生による元気なむらづくり】(事業(8))

予算額：(21) 2,339千円 (22) 6,661千円

事業概要：県内のグリーン・ツーリズム実践者との協働による全国グリーン・ツーリズムネットワーク大会の開催などを通じ、三重県の農山漁村を県内外へ広くPRするとともに、実践者の広域ネットワークの構築、県民の農山漁村地域に対する理解醸成に取り組めます。